

小学部 第3学年 国語科「こまを楽しむ」学習指導案

単元の目標	・教材を参考に体験から必要な事柄を調べ、みんなで「こまを楽しむ本」を作ることができる。【知識・技能】 ・「こまを楽しむ会」でこまの楽しみ方や回し方のこつなどを相手に応じて説明することができる。【思考力・表現力・判断力】 ・こまについて調べたことを整理し、進んで「こまを楽しむ本」を書こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
○日本語支援 ●多文化共生の視点	○実際にこまを見たり回したりしながら書かれている内容が腑に落ちるようにして、筆者が伝えなかった「こまを楽しむ」気持ちを味わいつつ読むことができるようにする。 ○「こまを楽しむ本」を作るために、ペア・グループトークを適宜取り入れ、互いの考えを聞き合いながら書くことができるようにする。 ●本単元では、多文化社会の中で生きる力として、主に、創造性の育成を目指して行う。そのために、日本の伝統文化であるこまを中心に紹介文を書く活動を行う。 ●総合的な学習の時間を活用し、中国と日本のこまを比べる活動を通して、文化の「違い」を「違い」として認め合い、異なる文化を受容し尊重する共生の心を育てる。

単元の指導と評価の計画

言語活動	次	時	学習活動	指導上の留意点 (☆多文化共生の視点)	評価基準
こまを楽しむ本を作り紹介すること	一	1	・「こまを楽しむ本」を作ることを知る。 ・最終的に「こまを楽しむ会」を開くことを知り、学習の見通しを持つ。 ・本文が「はじめ・中・おわり」の3段構成になっていることを知りそれぞれの段落の役割を考える。	・担任が作った「もっとこまを楽しむ」の本を紹介することで、自分たちも作りたいという意欲を持たせる。 ・5年生に、こまの説明をしたり、回し方を教えたりするために、教材「こまを楽しむ」を通して説明のこつを学ぶことを知らせる。 ・「言葉で遊ぼう」を振り返って比較して考えるようにさせる。	・説明文の構成を学習し、自分たちが「中」の部分を書いたり話したりすることを知り、課題意識をもって読もうとしている。【態】
		2 3 本時 4	・中の部分でこまがどのように紹介されているかを考え、内容別にまとめる。(ワークシート) 2時…色変わりゴマ・鳴りごま 3時…逆立ちゴマ・たたきごま 4時…曲ゴマ・すぐり	・名前・楽しみ方・形・回り方の特長・回し方のこつについて、実物を見たり、回すところを見たり、実際に回してみたりして考えさせる。 ☆自分の書いた文章と友だちの書いた文章を比べて読み合い、感想を伝え合うことができるようにする。	・項目に分けてワークシートに書くことができている。【知・技】
	二	5	・色々なこまを自分で回してみても本に書くこまを選ぶ。	・4グループ作り、机に色々な種類のこまを各2種類ずつおいて体験できるようにする。	・書く内容を思い描いて、本に書くこまを選ぶことができている。【態】

				・ローテーションして色々なこまを体験できるようにする。	
		6 7	・原稿に自分で選んだこまについて紹介する絵を描き、文章を書く。 ・出来たら読み合ったり、2個目の原稿を書いたりする。	・同じこまを選んだ児童同士グループを組んで話し合いながら書くことができるようにする。 ・書きたい児童は何枚書いてもよい。 ☆グループで読み合い、感想を書き合う時間を設けることで、友だちの説明文のよさや自分の説明文との違いを見つけることができるようにする。	・3つ以上の項目について書き、原稿を仕上げる事ができている。【思・判・表】
	三	8	・「こまを楽しむ会」で自分が説明するこまを決める。 ・説明ポイントカードを作成する。 ・回し方のこつの説明を考えておく。	・こまに重なりが出ないように考えてペアを決める。(6ペア) ・各々のこまについてカードを作成する。箇条書きあるいは説明の助けになる程度の簡単なものにとどめる。	・自分が説明するこまのポイントカードを書く事ができている。【思・判・表】
		9	・グループで交代しながら「こまを楽しむ会」の説明をし合い、アドバイスし合う。	・お客さんになる人はそのこまのことを全く知らないふりをして色々聞いてみるように声を掛ける。	・お互いの説明に対してアドバイスをし合っている。【態】
		10	・「こまを楽しむ会」を開き、5年生に丁寧な言葉遣いで説明したりこつを教えたりする。	・自分たちがもてなす側であること、相手は目上の人であることを意識して、丁寧な言葉遣いで説明するよう声を掛ける。 ☆学んだことを具体的に引き出し、単元を通して自分の学習活動について振り返りができるようにする。	・丁寧な言葉遣いで、自分の担当するこまについて説明できている。【思・判・表】

本時の学習

(1) 目標 本づくりに必要な、こまの楽しみ方・形・回り方がどのように書かれているか、大事な言葉や文に気を付けて読むことができる。

(2) 準備 ワークシート 電子黒板 さか立ちごま たたきごま

(3) 展開 ※○多文化共生の視点

学習活動と内容	指導上の留意点	評価規準（方法）
1. 「さか立ちごま」・「たたきごま」について書かれている段落を読み、本時の学習のめあてを確かめる。	・一人読み、班○読み、など色々な読み方で読み、大事な言葉や文に気付くことができるようにする。	
「さか立ちごま」と「たたきごま」はどんな楽しみ方ができるか考えよう		
2. 「さか立ちごま」で確かめたいところや、面白そうだと思うところは	・どういうところを中心に調べるのかをはっきり意識して実際に回すよ	・「さか立ちごま」や「たたきごま」に書いてある

どこかをあげ、実際に経験して教科書の内容を確かめる。 ・どのようにして逆立ちするのか。 3. 「たたきごま」でほかのこまと違うところや、確かめたいと思うところはどこかをあげ、教科書の内容を実際に見て確かめる。 ・どのようにたたくのか。 4. 「さか立ちごま」か「たたきごま」のどちらかを選んで、どんな楽しみ方をするのかをワークシートに書く。	う声を掛ける。(形、回り方など) ・各班にこまを一つずつ配りそれぞれが体験できるようにする。 ・今までのこまとの違いや、確かめたいところを意識して見るように声を掛ける。(形、回し方など) ・教師の示範で行う。 ・自分が面白いと思ったほうを選んで書くようにさ声を掛ける。 ○自分の書いた文章と友だちの書いた文章を比べて読み合い、感想を伝え合うことで、友だちの文章のよさや自分の文章との違いに気づくことができるようにする。	楽しみ方や形や回り方を理解しようとしている。(発言・表情)【知・技】 ・どちらかを選んでどんな楽しみ方ができるかを書いている。(ワークシート)【思・判・表】
---	---	--

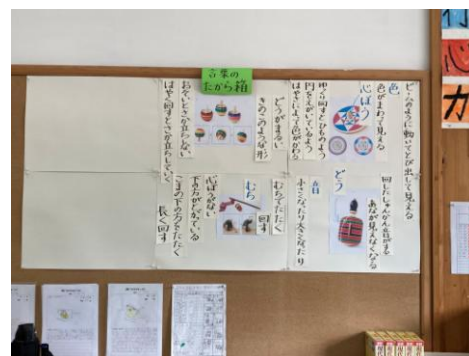
考察

①体験を言葉に

本単元の学習をするにあたって、日本からいろいろな種類のこまを取り寄せて子供たちが休み時間に遊べるよう、環境整備をするところから準備を行った。

②楽しい国語の授業

子供たちが興味関心をもって活動へ取り組むことができるよう、教材・教具の選定や場の設定を行っている。



(成果と課題)

○体験的な活動を取り入れたことにより、子供たちが「次の国語は何をするのかな？」とつぶやくくらい日本語を学ぶことに意欲的になった。

○こまとの関わりを通して、「こまを回す」「こまが回る」など、助詞の使い方についてまで丁寧に日本語指導をすることができた。また、こまの楽しみ方について言葉で説明する活動を通して、語彙が豊富になった。

△一斉指導をする際、個別指導をどのようにいれていくことが効果的であるか、検証する必要がある。「書く」活動については一人ひとりが自分で推敲し、言葉の間違いに気付くことができるよう、推敲するポイントをまとめた「振り返りカード」を今後持たせて活用したいと考えている。

